



第3章 本市スポーツの現状と課題

1 スポーツ施設



1.1 施設の概況

本市の公共スポーツ施設の現況は下表のとおりである。2023（令和5）年3月に総合体育館（以下、「香陵アリーナ」と表記）がオープンした一方で、従前計画の期間中に市民体育館、勤労者体育センター、香陵武道場、香陵運動場、屋内温水プールが閉鎖となっている。

また、既存施設、及び一般開放されている学校体育施設の多くは老朽化が進んでいる。

■ 市関連スポーツ施設位置図

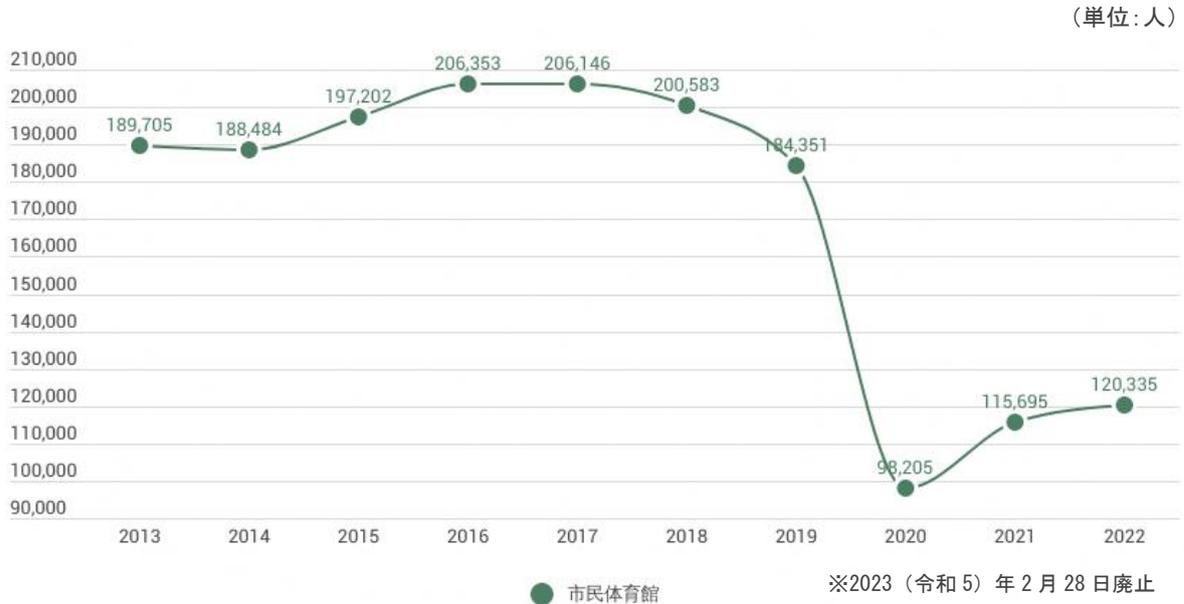




1.2 施設利用者数の推移

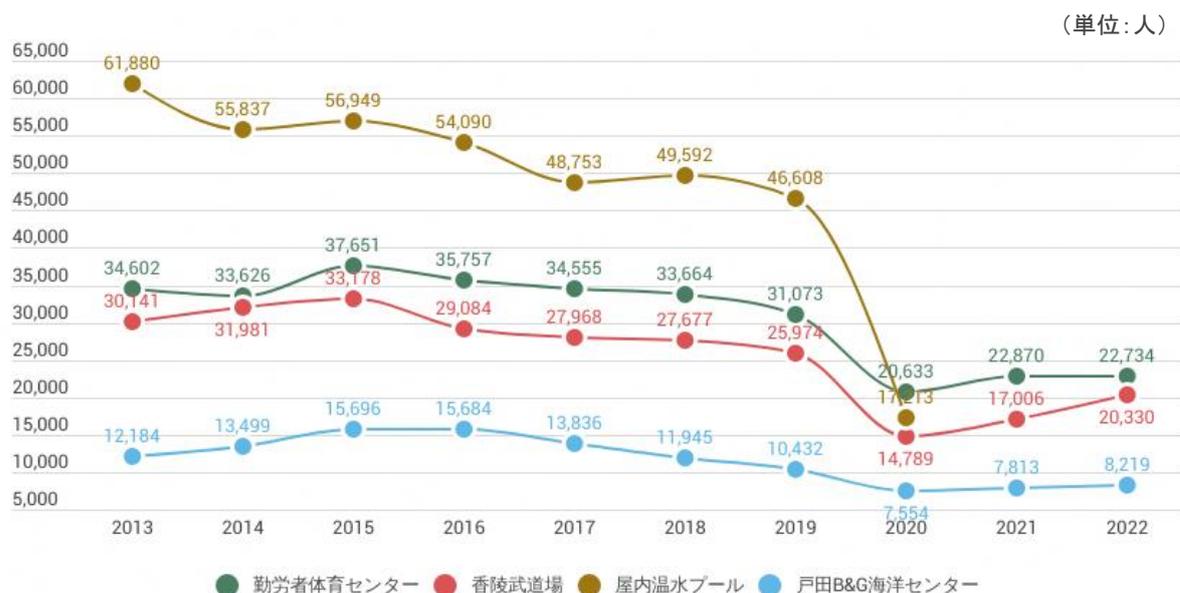
本市の公共屋内体育施設の利用者数推移を下図に示す。香陵アリーナの開館に伴い閉鎖となった市民体育館は、ピーク時には年間20万人程度の利用があったが2020（令和2）年度からコロナ禍の影響で大きく落ち込んだ。

■ 市民体育館



2019（令和3）年度で閉鎖となった屋内温水プールは、年間5万人前後の利用があったが近年は減少傾向であった。その他の施設は、コロナ禍の影響を除くと概ね横ばいかやや減少傾向にある。

■ その他の屋内施設

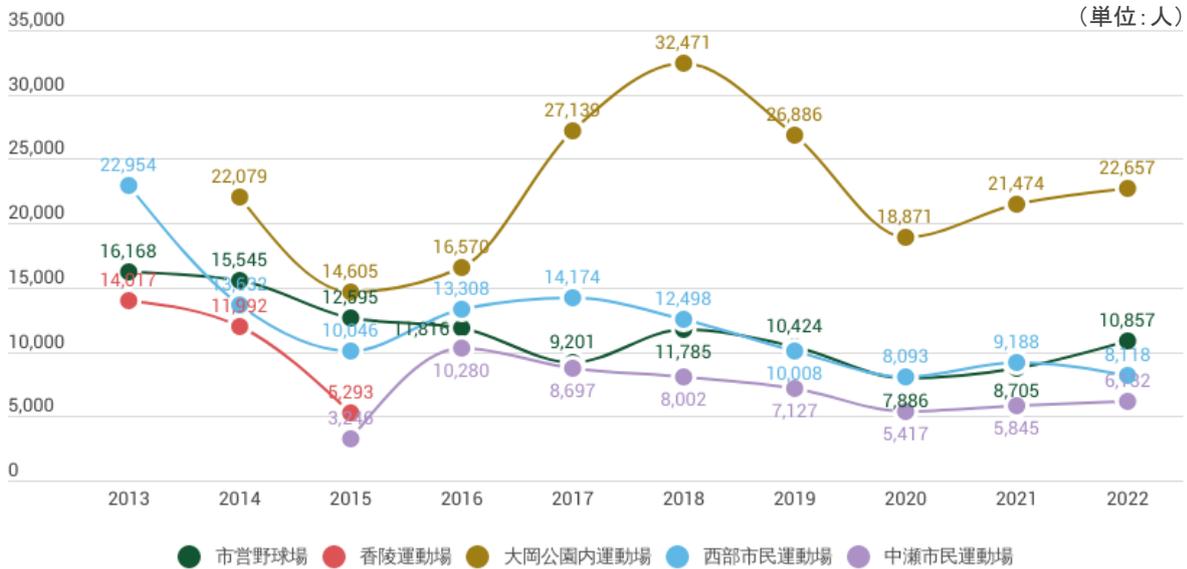


※勤労者体育センター：2023（令和5）年2月28日廃止、香陵武道場：2023（令和5）年2月28日廃止
 屋内温水プール：2021（令和3）年3月31日廃止



屋外スポーツ施設については、大岡公園内運動場は年によって増減があるものの増加基調にある。その他の施設は、概ね横ばいで推移している。

■ 屋外運動場・野球場



※香陵運動場：2015（平成27）年10月31日廃止、中瀬市民運動場：2015（平成27）年11月1日新設

■ テニスコート

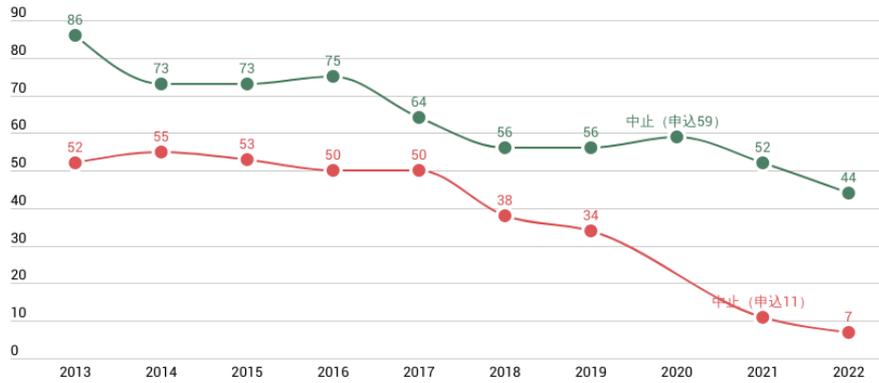


2 市民スポーツ大会



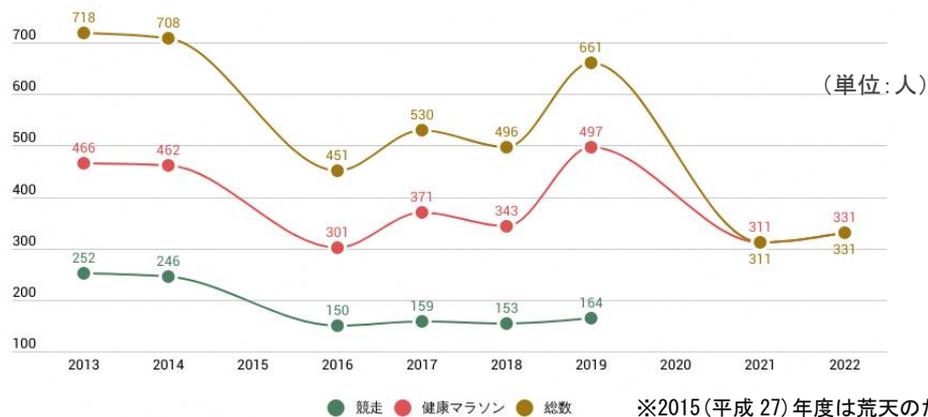
市内で恒例開催されている主要な市民スポーツ大会の参加数の推移を下図で示す。
 コロナ禍の影響を受ける前から、全体的に参加者数が減少傾向にある。

■ 町別大会参加チーム数



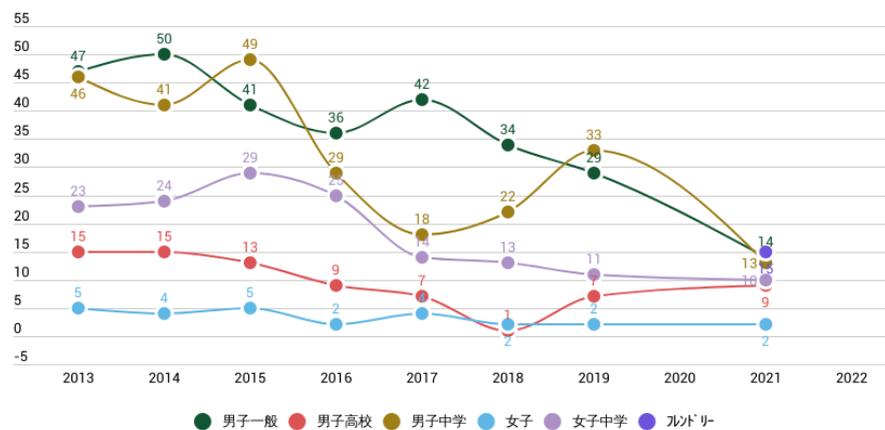
● 町別ソフトボール ● 町別バレーボール ※ソフトボール 2020(令和2)年度、バレーボール 2020(令和2)、2021(令和3)年度中止

■ 千本浜ファミリーマラソン



(単位:人) ※2015(平成27)年度は荒天のため、2020(令和2)年度はコロナ禍のため中止
 ※2021(令和3)年度以降は競走の部廃止

■ 駅伝競走大会参加チーム数



年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
チーム数	136	134	137	101	85	72	82	0	63	0

※2020(令和2)、2022(令和4)年度はコロナ禍のため中止

3 市民向け教室



地域別に開催されている地域体づくり教室及び沼津市スポーツ協会主催教室¹²の延べ参加人数の推移は、下図のとおりである。

コロナ禍の影響を除くと、地域体づくり教室はほぼ横ばいで、年間1万6千～7千人程度の参加がある。市スポーツ協会主催教室は、2017（平成29）年度までは地域体づくり教室とほぼ同水準であったが、それ以降は市民体育館利用者数と同様、減少傾向となっている。

■ 地域体づくり教室・スポーツ協会教室参加者数



¹² 沼津市スポーツ協会主催教室：2021（令和3）年7月に「NPO法人沼津市体育協会」から「NPO法人沼津市スポーツ協会」に名称変更。それ以前は「沼津市体育協会主催教室」

4 学校開放

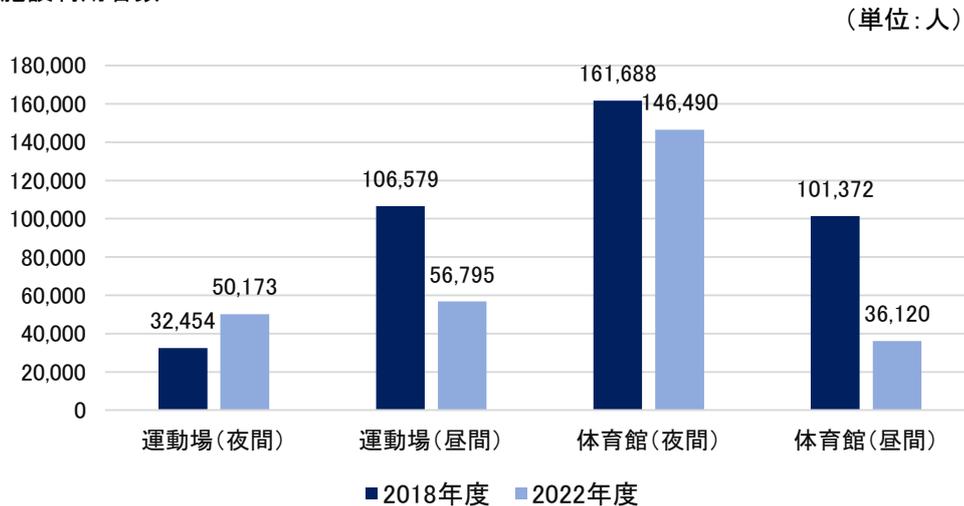


4.1 概況

学校開放施設の年間延べ利用者数は下図のとおりで、コロナ禍以前の2018（平成30）年度で約40万人、2022（令和4）年度は約3割減の約29万人となっている。

施設・時間帯別にみると、夜間の体育館が最も多く、次いで昼間の運動場となっている。

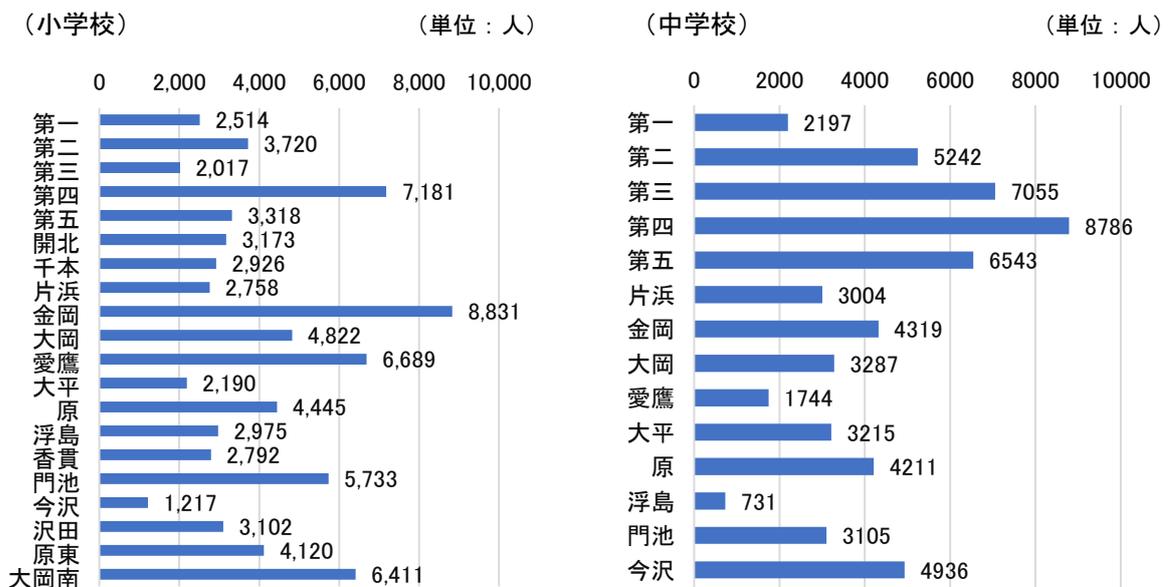
■ 学校開放施設利用者数



4.2 地区別の利用状況

2022（令和4）年度の地区別（学校施設別）の夜間の体育館の年間延べ利用人数は、下図のとおりである。千人以下の施設から9千人近くまで、地区によってかなりの差がある。

■ 学校施設別利用者数〔体育館（夜間）・2022年度〕



5 スポーツ交流資源



本市の特徴として、海・山・川の豊かな自然に恵まれ、各種スポーツ施設のほかに、サイクリング、ハイキング、トレッキングなどアウトドアを楽しめるエリアや、カヌー、SUPなどのウォータースポーツを気軽に楽しめるスポーツエリアを有していることがあげられる。その全体図を下図に示す。

■ 本市のスポーツ交流エリア



6 市民アンケート結果から見た現状



6.1 調査の概要

市民のスポーツに関する意識やスポーツ施設の利用状況などからスポーツを取り巻く現状を把握するとともに、課題や問題点を分析するために、2022（令和4）年度に実施したアンケート調査の実施概要を以下に示す。

■ 調査の概要

区分	期間	回答数/対象者数(回収率)	設問数	
1.スポーツ活動に関する市民アンケート	R4.10.21～R4.11.7	609/1,534 (39.7%)	27	
2.部活動に関するアンケート	①学校長	R4.7.11～R4.7.31	15/18 (83.3%)	7
	②教員	R4.7.11～R4.7.31	240/350 (68.6%)	23
	③生徒	R4.7.11～R4.7.31	1,884/2,846/ (66.2%)	15
	④保護者	R4.7.11～R4.7.31	1,037/2,836 (36.6%)	19
3.スポーツ合宿・大会誘致にかかる 宿泊業者アンケート	R4.7.8～R4.7.29	45/164(27.4%)	12	
4.学校体育施設利用団体アンケート	R4.5.9～R4.6.20	279/515(54.2%)	8	

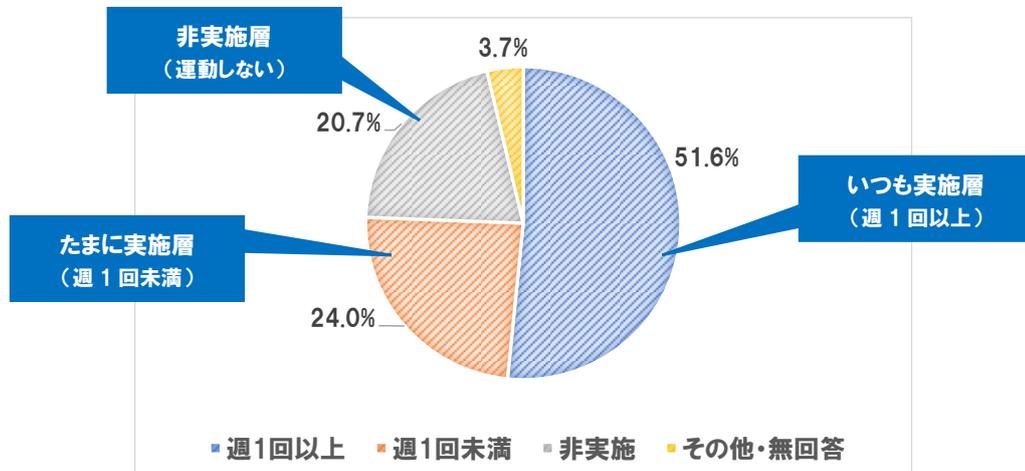
※市民アンケートの対象は、18歳以上（10代の回答者は11名／1.8%）

6.2 アンケート結果の概要

(1) スポーツ実施の状況と健康意識

- 回答者の半数（全体 51.6%、成人 52.2%）が週1回以上運動・スポーツをしており、スポーツ庁の全国調査結果 52.3%とほぼ同水準
- 実施している種目は、ウォーキングをはじめ、体操やストレッチなどの日常生活の中で意識的に体を動かす比較的強度の低い身体活動が中心で、「今後、やってみたい種目」も同様の傾向
- 自身が健康と感じている市民が8割以上
〔大いに健康 11.0% + まあまあ健康 70.0%〕

■ スポーツ実施率（n=609）



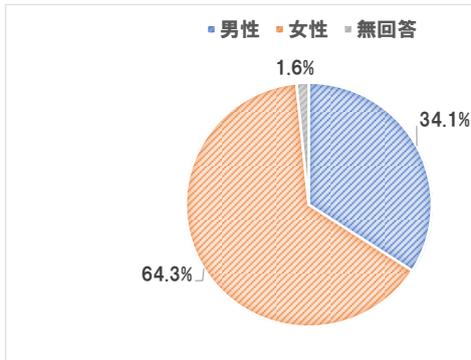


(2) スポーツをしない層（非実施層）について

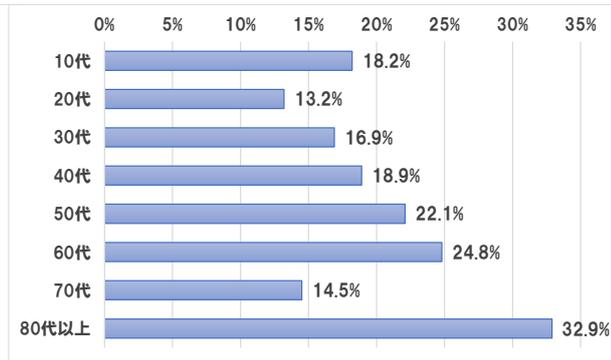
【スポーツ非実施層】

- この1年間まったく運動・スポーツを行っていない人は全体の約2割
- 男性よりも女性の方がその率が高く、ほぼ4人に1人
- しない理由の一位は「時間がない」(29.4%)、次いで「きっかけ・機会がない」(27.8%)

■ 非実施層の性別構成（市民アンケート）
(n=126)



■ 年代別の運動スポーツ非実施率（市民アンケート）
(n=609)



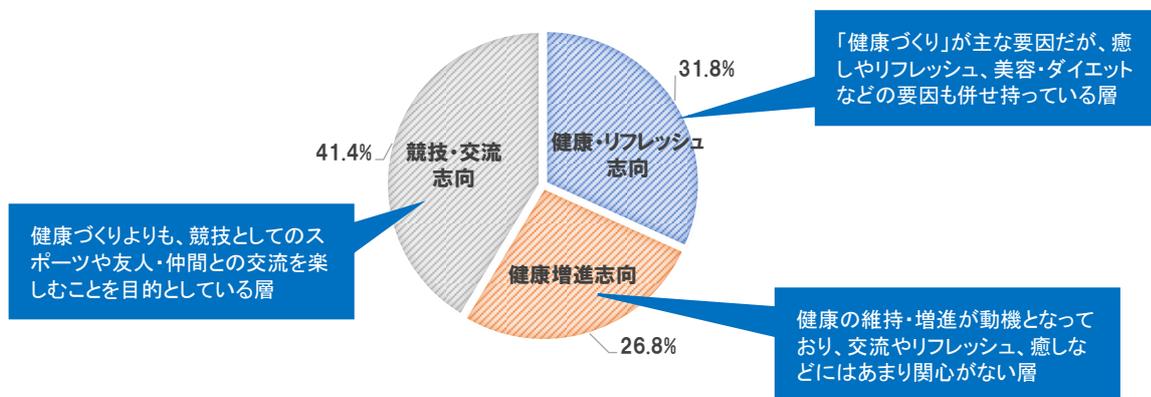
※ 数字は、各年代の「運動・スポーツをしない人」の割合

(3) 運動・スポーツをする動機

スポーツ実施層¹³の「運動・スポーツをする目的」の質問に対する回答結果をもとに、統計的手法¹⁴を用いて回答者をグループ分けした

- 美容・ダイエット・リフレッシュを主目的にするウェルネス志向（3割強）
- 健康の維持・増進を主目的にするヘルスケア志向（3割弱）
- 仲間との交流を主目的にするレクリエーション競技志向（4割）

■ 実施層の目的・志向別構成比（n=440）



¹³ スポーツ実施層：この1年間に「運動・スポーツを年1回以上行った人」（「いつも実施層」＋「たまに実施層」）

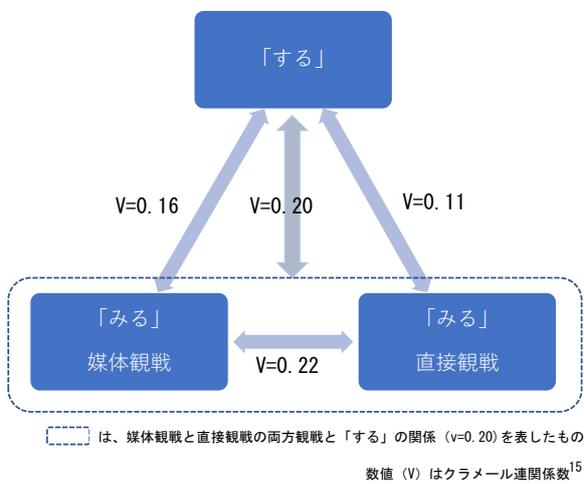
¹⁴ 分析手法：回答結果から運動・スポーツをする要因を抽出（因子分析）して、そのパターンから回答者を分類する（クラスター分析）手法



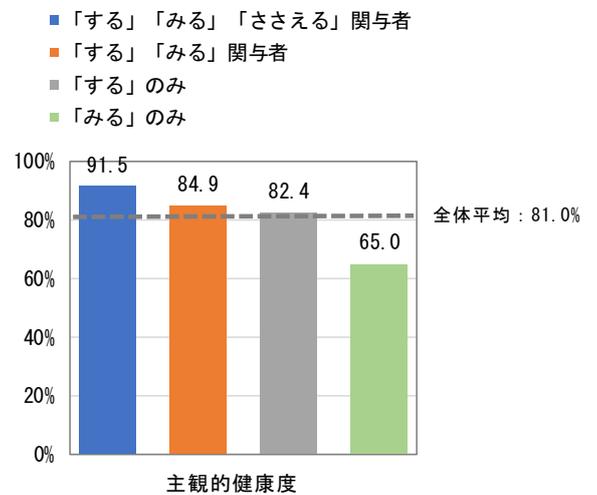
(4) 「する」・「みる」・「ささえる」の関係

- 過去1年間の直接スポーツ観戦率は29.6%、テレビやインターネットでの観戦率は85.7%
- スポーツボランティアの参加率(2.0%)が全国平均(9.9%)よりかなり低い
- 「スポーツをする」と「みる」とには一定の相関関係があり、「みるスポーツ」を推進することが「スポーツをする人」のすそ野を広げることにもつながる可能性がある
- 「する」だけでなく、「みる」、「ささえる」など、多様なスポーツのかかわり方を体験することがより本人の主観的な健康度を高める可能性がある

■ 「する」「みる」行動間の関係の強さ (n=535)



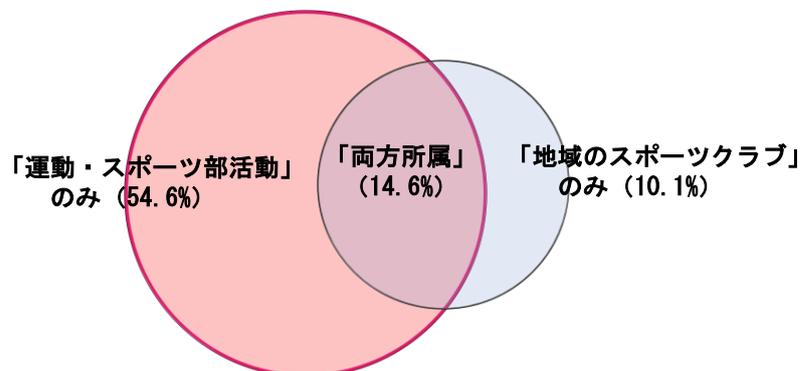
■ スポーツ関与タイプ別主観的健康度



(5) 学校部活動について

- 公立中学校の生徒の運動部活動への参加率は約7割(69.2%)で全国平均(71.4%)とほぼ同水準
- 地域のスポーツクラブへの参加率は24.6%、うち、部活動にも所属する率は14.6%
- 部活動の地域移行に対して、保護者は賛成23.5%、反対21.0%と拮抗、教員は72.5%が賛成

■ 運動部活動・地域スポーツクラブへの所属割合 (n=1,883)

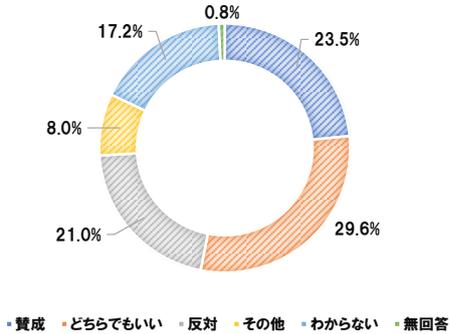


¹⁵ クラメル連関係数：アンケート結果から異なる2変数（「する/しない」と「みる/みない」など）を掛け合わせた集計結果をもとに算出される項目間の関係の強さを表す指標で、0~1の範囲を取り、0.1以上で関連があり、1に近づくほど強い関連があると認められる。

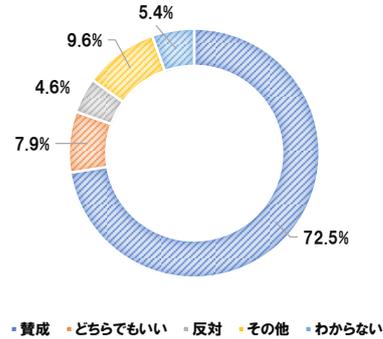


■ 部活動の地域移行に対する意見

(保護者・n=925)



(教員・n=240)



※賛成:「地域移行すべき」と「できれば地域移行してほしい」のいずれかを選択した人の計

反対:「地域移行すべきでない」と「できれば地域移行してほしくない」のいずれかを選択した人の計

※賛成:「ぜひ地域移行してほしい」と「できれば地域移行してほしい」のいずれかを選択した人の計

反対:「自身が指導したいため、地域移行してほしくない」と選択した人の計

(6) 学校体育施設の開放について

【利用団体】

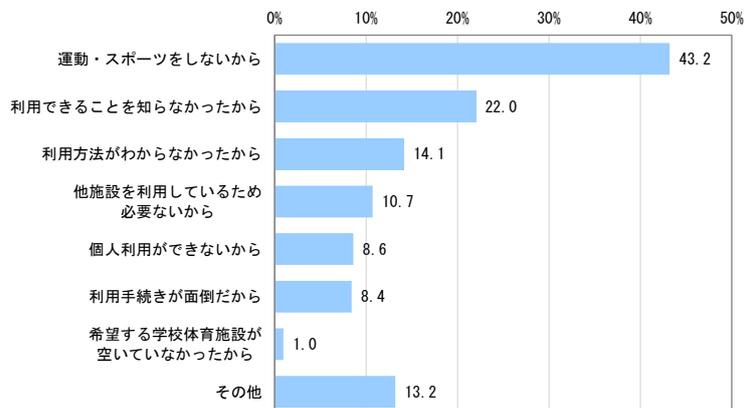
- 小学生から成人までの多様な世代が利用
- 週1回の利用が6割(59.0%)
- 多くの団体が、会員減少と高齢化を今後の活動の課題としてあげている
- 利用料金の徴収について「徴収しないほうがよい」が42.3%、「やむをえない」が38.4%

【非利用者】

- 学校体育施設を利用したことがない人の理由は「運動・スポーツをしないから」が43.2%で最も高い
- 「利用できることを知らなかったから」(22.0%)「利用方法がわからなかったから」(14.1%)と、情報不足に起因する理由も上位

■ 学校体育施設を利用していない理由 (市民アンケート)

(n=523)





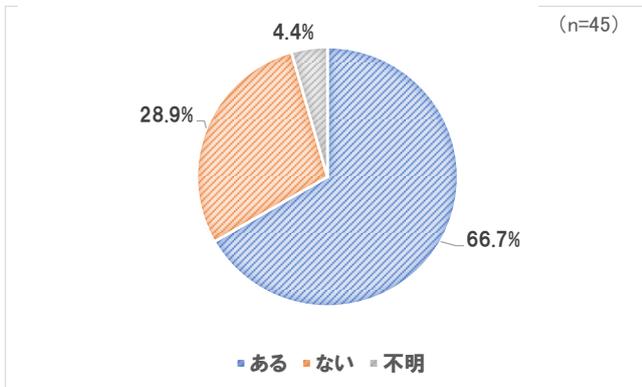
(7) スポーツ合宿・大会誘致について

スポーツ合宿・大会誘致に関する市内宿泊事業者のアンケート結果は、回収率が3割弱(27.4%)にとどまっており、受入れに対する関心の低さがうかがえる。

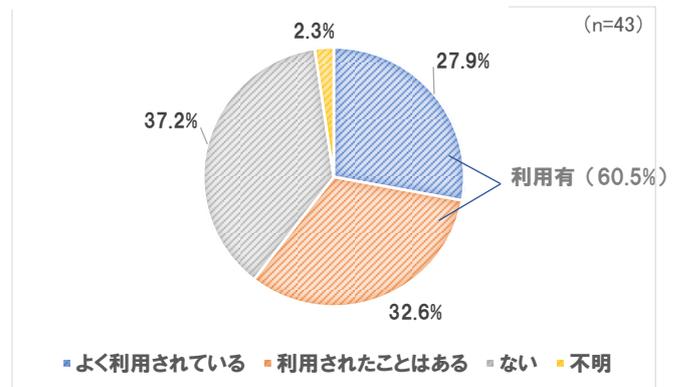
結果の概要は以下のとおりである。

- 回答事業者のうち、約6割(60.5%)で利用実績、3分の2で「問合せ」実績がある
- 合宿・大会で利用されているジャンル(複数回答)は、「野球・ソフトボール」が最も多く11軒、その他、球技、マリンスポーツ・レジャー、フェンシングなど、多様な種目で利用されている
- 合宿などの誘致にあたっての本市の強みは「マリンスポーツのできる海」がもっとも多く、次いで「首都圏からのアクセス」
- 行政への期待は「スポーツ施設の充実」と「誘致の補助」が上位

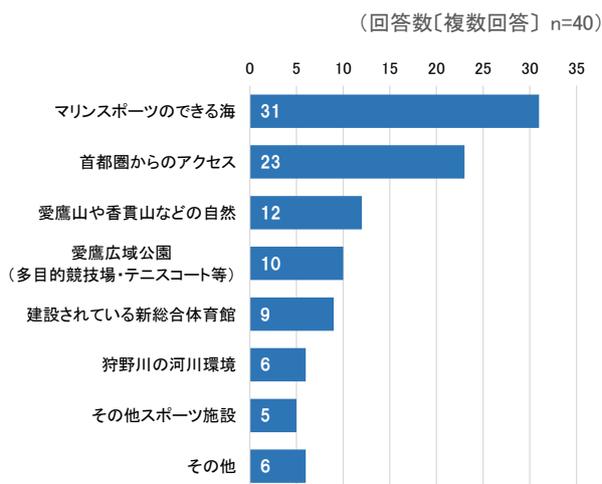
■ 合宿・大会関連宿泊の問合せ



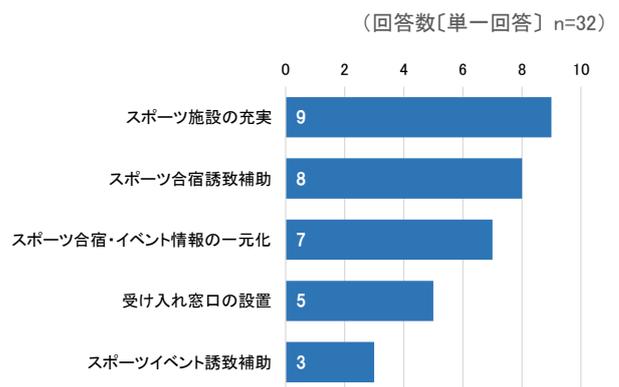
■ 合宿・大会関連宿泊利用の実績



■ イベント・合宿誘致にあたっての本市の強み



■ 行政にもっとも期待すること



7 従前計画の進捗状況



7.1 計画目標の達成度

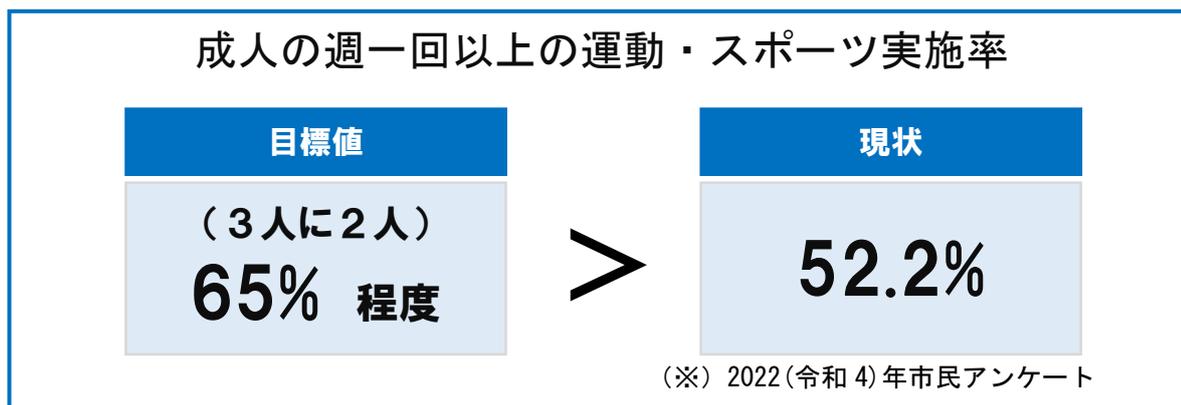
従前計画は、以下の2点を目標指標としている。

指標1：成人の週一回以上の運動・スポーツ実施率が「3人に2人（65%程度）」

指標2：小・中学生の新体力測定の結果が静岡県の平均以上

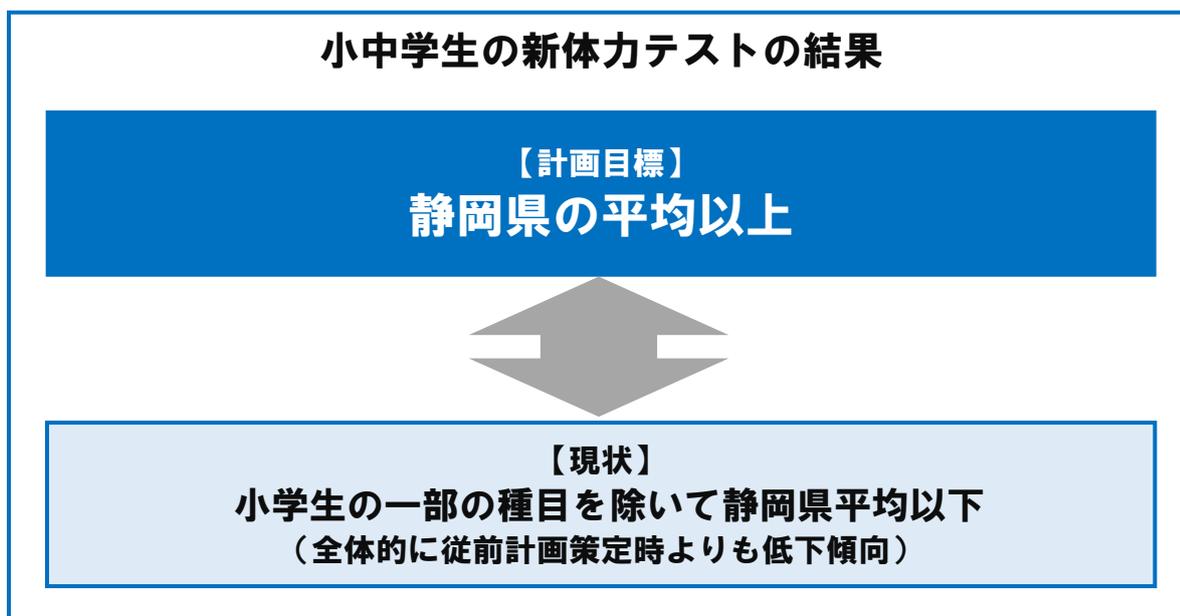
指標1については、2022（令和4）年の市民アンケート結果では目標値には達していない。

■指標1の達成度



指標2は、2022（令和4）年の小・中学生の新体力テストの結果をみると、小学生の一部の種目を除いて静岡県の平均以下であり、目標未達となっている。また、全体的に従前計画策定前年の2012（平成24）年よりも低下傾向にある。

■指標2の達成度





■ 小学5年生の新体力テスト測定結果〔2022（令和4）年度〕

（全国平均・静岡県平均より上：赤太字（下線）、下：黒太字）

性別	区分	握力 (kg)	上体 起こし (回)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (回)	20m シャトルラン (点)	50m走 (秒)	立ち幅 とび (cm)	ボール 投げ (m)
	沼津市	15.67	18.40	31.86	40.84	42.23	9.61	153.09	19.95
男子	静岡県	16.24	19.05	32.85	41.11	48.45	9.42	152.63	20.21
	全国	16.21	18.86	33.80	40.37	45.93	9.53	150.86	20.31
	沼津市	16.04	17.50	36.08	39.53	34.40	9.71	147.12	14.06
女子	静岡県	16.26	17.86	37.20	39.61	39.72	9.61	146.46	13.74
	全国	16.10	17.97	38.20	38.67	36.98	9.70	144.59	13.16

■ 中学2年生の新体力テスト測定結果〔2022（令和4）年度〕

（全国平均・静岡県平均より下：黒太字）

性別	区分	握力 (kg)	上体 起こし (回)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (回)	20m シャトルラン (点)	持久走 (秒)	50m走 (秒)	立ち幅と び (cm)	ボール 投げ (m)
	沼津市	29.41	26.36	42.70	51.38	72.11	434.08	7.96	199.73	20.31
男子	静岡県	30.00	27.35	46.88	53.51	81.60	393.43	7.81	205.27	21.64
	全国	28.95	25.64	43.76	51.02	77.69	410.92	8.06	196.82	20.20
	沼津市	23.28	22.66	44.21	46.81	50.13	319.69	8.83	170.51	13.28
女子	静岡県	23.93	23.10	49.29	47.88	55.43	290.66	8.75	175.11	13.68
	全国	23.17	21.58	46.05	45.81	51.34	303.96	8.97	166.89	12.38



7.2 施策方針別の進捗状況

年度ごとに作成している事業評価シートから、従前計画の施策方針別の進捗状況を下表にまとめた。

■ 施策方針別の進捗状況

基本方針	施策の方向性	進捗状況
1 生涯スポーツの推進	ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても感染対策の工夫によりほとんどの事業を継続して実施した ・公共施設の利用者数、教室参加者数は、全体的にみてやや減少傾向にある ・市と連携協定を結んでいるプロ、トップチームと連携しトップアスリート教室を開催 ・体力づくり教室は、2023（令和5）年度から香陵アリーナの指定管理者に移管
	地域スポーツ活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で利用制限を行いながら学校開放は継続 ・利用団体のアンケートでは、利用種目は、バレーボールなどの屋内競技が多い ・利用団体の高齢化、会員減少が進んでいる
	競技スポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で中止、縮小される大会が多くあったが、2022（令和4）年度は回復の兆しがみられている
2 スポーツ環境の整備	新市民体育館（香陵アリーナ）の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・2023（令和5）年3月開館
	既存施設の機能強化と活用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ広場の整備箇所39か所 ・施設の老朽化などに対応した修繕対応を継続して実施
	総合型地域スポーツクラブの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・前期から登録2団体のままで推移している
3 スポーツ活動を支える仕組みの充実	スポーツ活動を支える人材の育成・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・2021（令和3）年度から関連事業を統合して「スポーツ指導者バンク」を創設し、市民の健康づくり活動を支援（登録者数・66名）
	スポーツに関する情報提供体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・広報ぬまづの他、市ホームページやSNSでの発信、学校へのポスター・チラシ配布、報道機関への情報提供などでの広報活動を実施
	関係機関・団体との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ協会への支援を継続的に実施



7.3 スポーツ交流事業

スポーツ交流について、従前計画の策定以降に以下の取組を推進している。

(1) フェンシングのまち沼津推進事業

本市は、2019（令和元）年2月、競技振興の地方拠点を設けたいという意向を有する日本フェンシング協会と全国で初めて包括連携協定を締結し、「フェンシングのまちづくり」を推進している。

2020（令和2）年6月には、官民連携の事業推進母体である「フェンシングのまち沼津推進協議会」が設立され、以後同協議会を中心に、学校訪問事業や各種体験会の実施等による競技の裾野拡大やシンボルフェンサーの育成等に取り組み、年代別の日本代表に選出される選手を輩出するなどの成果を生んでいる。また、2021（令和3）年6月に開設された拠点施設「F3 BASE」における日本代表チーム等の合宿誘致、市内での全国規模の大会開催など、フェンシングを通じた交流人口の拡大を図っている。



(2) 「アスクラロ沼津ホームタウン推進事業」とトップチームとの連携

県東部地域で唯一のJリーグクラブであるアスクラロ沼津を支援し、同クラブと連携したまちづくりを推進している。

(主な支援内容)

- 同クラブのライセンス保持に必要な愛鷹競技場照明改修の資金調達プロジェクト支援
- クラブの応援機運を醸成する「オールブループロジェクト」などによる市民・市内事業者への浸透支援
- 沼津マッチの開催や無料観戦チケット等への協賛など



また、香陵アリーナのこけら落としイベントとして、静岡県を拠点とする「東レアローズ」（男子バレーボールVリーグ）、「ベルテックス静岡」（バスケットボールBリーグ）の公式戦を誘致・開催。その後も香陵アリーナを拠点に市民がトップレベルの競技に触れる機会を提供するなど、みるスポーツを振興するとともにスポーツを通じた地域の活性化を図っている。

(3) 沼津サイクルツーリズム推進事業

本市が有する海・山・川の恵まれた自然を活かしてサイクルツーリズム事業を展開しており、持続可能なサイクルツーリズムの推進に向けて、民間事業者との連携や新たな担い手の発掘・育成などに取り組んでいる。



(主な推進施策)

- 海越しに富士山が眺望できる海岸線などを活かしたサイクルルートの整備、PR
- レンタサイクル、バイシクルピットの整備
- 地域振興と市民の健康増進を目的とした市内周遊型サイクルキャンペーン
- 地域の歴史資源とサイクリングを組み合わせた観光プラン造成と誘客プロモーション
- 廃校を活用して拠点施設「NUMAZU サイクルステーション静浦東」を整備
- 愛鷹運動公園内に民間活力を導入したマウンテンバイク体験施設「MTB パーク」を整備

8 スポーツ推進の課題



8.1 市民スポーツの推進課題

2022（令和4）年度に実施した市民アンケートでは、従前計画の策定時に比べて「成人の週1回以上のスポーツ実施率」は上昇しているものの計画目標（65%程度）には達していない。

また、過去1年間で何らかのスポーツ活動を行った市民が約8割である一方、「運動不足」と感じている¹⁶市民も約8割となっている。

約2割の市民が1年間にスポーツ活動をしていないが、そのうちの約7割が「気軽に参加できる」、「スポーツ以外の要素との組み合わせ」などの条件を満たせばスポーツイベントに参加したいと回答している。

また、女性のスポーツ参加率が相対的に低く、4人に1人が1年間スポーツを行っていない。健康づくりの視点からも、働き盛り世代、子育て世代に運動の課題が多くなっている¹⁷。

高齢者については、全国平均に比べ、60代の週1回以上のスポーツ実施率が低い。

小中学生については、生活様式の変化やスマートフォン、ゲームの普及を背景に、外遊び機会が減少していることなどから全般的に体力低下の傾向が続いており、コロナ禍の影響もあって、近年はその傾向が顕著となっている。従前計画の目標である「新体力テストの結果が静岡県の上平均以上」も未達であり、国の学校部活動の地域移行施策の方針も踏まえながら、小中学生世代のスポーツ環境を再編していくことが求められている。

このような現状から見て、市民の日常にスポーツをより一層浸透させるためにはこれまでの取組だけでは不十分であり、市民にとってスポーツがより身近になり、それぞれが自主的にスポーツ活動を継続できるためのきめ細かな施策が求められる。

このため、個別事業のねらいや対象層の明確化、市民の多様化するニーズへの対応、新しいスポーツスタイルの導入、事業成果の評価とフィードバック方法の確立などに取り組んでいく必要がある。

これらの点を整理した市民スポーツの推進課題として、次の項目があげられる。

■ 市民スポーツの推進課題



スポーツ実施率向上のための取組強化
（無関心層・低頻度実施層への対応など）



市民主体の継続的な活動の場の確保
（学校開放の仕組み充実、公園・遊休地活用など）



子どものスポーツ環境の再編・充実
（学校部活動のあり方検討、地域クラブ育成など）

¹⁶ 「運動不足と感じている」：「大いに感じている」と「ある程度感じている」の計

¹⁷ 出所：「第2次沼津市健康増進計画」〔2021（令和3）年3月〕 P39



8.2 スポーツまちづくりを推進するための課題

多様化、複雑化する社会課題を解決し、地域の個性を活かした地方創生を実現するため、スポーツのもつ「社会活性化に寄与する価値」を活かしていくことが国の施策方針となっている。

本市の総合計画においても、少子高齢化・人口減少が進行する中で、交流人口・定住人口を維持・拡大するために、スポーツを通じた本市の魅力の発信やスポーツツーリズムの推進などが施策方針として掲げられている。

総合計画策定のために、2018（平成30）年に実施した市民アンケートでは、本市が取り組むべき事項の第一位は「中心市街地の活性化」で回答率が4割以上となっており、まちの活力を創出する施策が市民に期待されている。また、地域においては、共生社会の実現やSDGsへの貢献、子育て支援、障がい者の社会参加、独居高齢者の孤立対策や介護・認知症予防など多様な課題が顕在化している。

地域の課題解決のためにスポーツは有効な資源となりうることから、今後、スポーツを通じて地域の課題を解決する、まちづくり視点でのスポーツ施策の推進も求められる。

この背景の下、これまでのスポーツ交流事業の成果を踏まえ、従来のスポーツ推進施策に「地域課題の解決」という視点を取り入れるとともに、香陵アリーナなどのスポーツ施設や恵まれた自然環境など、本市の強みを活かしたスポーツまちづくりをさらに充実させていく必要がある。

これらの点を踏まえ、スポーツを通じたまちづくり施策の課題を以下のように整理する。

■ スポーツまちづくりの推進課題



スポーツによる地域課題の解決促進
（多文化共生社会、コミュニティの絆づくりなど）



スポーツを通じたまちの活力づくり
（大会・イベント誘致、スポーツツーリズムなど）



豊かな自然・環境資源の有効活用
（サイクリング、ウォータースポーツなど）